

※今号からAPTECニュースレターをリニューアルいたします。APTEC賛助会員の皆様により親しんでいただけるよう、冊子形式での配信を行いたいと思います。

## ○【特集】UNWTO本部職員 小澤氏インタビュー

APTECニュースレター改善のための賛助会員様に対するアンケート調査では、UNWTO本部の取組についての情報発信を希望する会員様も声がありました。UNWTO本部はスペインのマドリッドに所在しますが、遠い海外のUNWTO本部のことを身近に感じていただくために、日々UNWTO本部で奮闘されているUNWTO職員の小澤さんにインタビューを行いました。

### ○自己紹介(御自身の来歴、現在の職務内容等)

1998年に(株)ジェイティービー入社後、法人営業・国内商品(エースJTB)企画造成・欧州からのインバウンド受入業務・訪日外国人向け商品(サンライズツアー)企画造成業務等に従事し、2017年2月から国連世界観光機関(UNWTO)に出向し、UNWTOアジア太平洋部(英文:UNWTO Regional Department for Asia and the Pacific)で勤務しています。

日本国政府の他南アジア地域(アフガニスタン・バングラデッシュ・ブータン・インド・イラン・モルディブ・ネパール・パキスタン・スリランカ)の観光政策の立案支援及び国連の専門機関としては珍しい組織体系であるAffiliate Member(賛助加盟員)間のコミュニケーション/協力体制促進といったネットワークの構築・推進業務に従事しています。



### ○国連機関で働くことの魅力について

現在UNWTOでは50数箇国の国籍からなる約150名の職員が勤務しており、正に“ダイバーシティー”を日々体感しながら働いております。生き方・働き方・ものごとへの接し方について常に新しい価値観を体感・体得することが圧倒的に多く、国連機関で働くことの大きな魅力であると考えています。また、日本の価値観を他職員に説明し、それらが理解・納得された場合には“考えが国境を超えた!”と実感でき、国連機関で働くことの一つの醍醐味であると考えています。

### ○UNWTOアジア太平洋部が現在力を入れて取り組んでいること

UNWTO調べに拠ると、2030年には世界を行き来する交流人口は18億人に達します。2018年実数でもその数は既に約14億人に達しており、世界平均伸率が3~4%のところ、アジア太平洋地域は5~6%の伸率で推移しています。国際観光客総数に占めるアジア・太平洋地域を訪れた人々の割合は、2000年には16%でしたが、2018年には24%にまで増えています。一方、世界総人口の約50%はアジア太平洋地域に属しているという事実からすると、24%というシェアはまだ低く、アジア太平洋地域住人の国外交流人口を増やしていける余地(改善点)が多く残されているものと考えられることから、UNWTOアジア太平洋部においては、「発展途上国の観光立案支援」「アクセシビリティ改善」「TSA (Tourism Satellite Account)導入支援」等を他部署とも連携しながら推進しています。

### ○UNWTOの仕事でチャレンジングだった仕事は?

各加盟国の観光政策に対するビジョンとそれらに基づいたUNWTO本部への支援依頼を正しく理解し、実行に移すことです。日本国が属する東アジア・パシフィック地域及び南アジア地域の二つの地域でさえ、ものごとに対する考え方やアプローチが全く異なりますので、その相違点を理解し、対処することに常日頃チャレンジしています。

## ○日本を外から見たときに改めて感じる日本の魅力、日本の観光の魅力

一般的に“○○国に行くなら○○の季節がベスト“などと言われますが、日本は47都道府県春夏秋冬いつ訪れてもその季節ならではの旬のものを見つけることができます。このような国は世界を見渡しても稀有なのではないでしょうか。私は出張やプライベートで47都道府県すべてを訪れ、様々な“自然・文化・食・色彩・人々”に触れてきました。“47都道府県×4季節(色) = 188色を感じられる国”、それが日本の魅力ではないでしょうか。

## ○日本の観光振興のための課題や対策

188色を感じられる国である一方で、自然災害との共生も日本の重要な国策であると認識しており、これら対策が観光振興に直結しているといっても過言ではないと思います。地震・台風・洪水・火山噴火・大雪・津波等への間断なき対策は日本に住む人々や訪日外国人にとっても安全・安心を醸成する非常に重要なポイントと理解しており、あえて理想言くと、万が一震災が発生した場合、なるべく多くの言語で案内がスムーズに発信される仕組みが構築され、実践運用されることを願っていません。また、日本政府は2020年までに訪日外国人観光客4000万人、2030年までに6000万人を目標としており、その達成時には、日本のあちらこちらに訪日外国人観光客が分散され訪問されていることが理想的であると考えています。日本を横断的、あるいは地域を限定して旅することを可能にするトラベルパス(航空・鉄道・バス・トラム・美術館等入場割引)の登場は必ずやその一助になるのではないのでしょうか。最後に、訪れた地域を写真に収めることも私の趣味の一つなのですが、日本の美しい景観を更に美しくするためには、電柱の地中化を推進してほしいと考えております。伝統建造物群保存地区からでも是非推進してほしいと思います。ヨーロッパと日本を行き来することがあり、日本帰国の際にいつも電柱や電線を見てこのことを感じています。

## ○APTEC会員へのメッセージ

188色を感じられる国である一方で、自然災害との共生も日本の重要な国策であると認識しており、これらへの対策が観光振興に直結しているといっても過言ではないと思います。地震・台風・洪水・火山噴火・大雪・津波等への間断なき対策は、日本に住む人々や訪日外国人にとっても安全・安心を醸成する非常に重要なポイントと理解しており、あえて理想言くと、万が一震災が発生した場合、なるべく多くの言語で案内がスムーズに発信される仕組みが構築されることを願っていません。また、日本政府は2020年までに訪日外国人観光客4000万人、2030年までに6000万人を目標としており、その達成時には、日本のあちらこちらに訪日外国人観光客が分散され訪問されていることが理想的であると考えています。日本を横断的、あるいは地域を限定して旅することを可能にするトラベルパス(航空・鉄道・バス・トラム・美術館等入場割引)の登場は必ずやその一助になるのではないのでしょうか。

最後に、訪れた地域を写真に収めることも私の趣味の一つなのですが、日本の美しい景観を更に美しくするためには、電柱の地中化を推進してほしいと考えております。伝統建造物群保存地区からでも是非推進してほしいと思います。ヨーロッパから日本へ帰国する際にいつも電柱や電線を見てこのことを感じています。

## ○ワンポイント『観光豆知識』

当事務所の外国人スタッフによる観光に関するワンポイント豆知識を連載します。今回は、2019年の8月にUNWTO本部から出版された観光統計の総合情報誌である“International Tourism Highlights 2019 Edition”から旅行者がディスティネーションを選択する上での動機を分析した「旅行者の傾向」(原文翻訳色付き)について観光の観点からの見方や論点について記載します。

### <「変えるため」の旅行>

地元の人達と同じような暮らし、本物の体験を訴求し、自分を変える

#### ○地元の人たちと同じような暮らし

・人々は、自分のルーツや他文化、アイデンティティを探求し、文化や食を経験することもよって地元の人々の生活を経験することを指向する。

#### ○本物の体験を訴求

・観光客はより多くの文化や自然で本物を探求する傾向にあり、観光地も「物」だけではなく「体験」を提供するようになってきている。観光客は、「物」を消費する代わりに「体験」を求める傾向にある。

## ○自分を変える

- ・人々は、精神的・知的活動への関心を高め、より充実した時間を求めるようになっている。
- ・オーダーメイドやパーソナライズされた製品及びツアーが求められ個人の嗜好が尊重される傾向にある。
- ・人々は旅をすることによって自己実現を求めている。

## <‘見せるため’の旅行

### インスタ映えする瞬間、経験・観光地

## ○インスタ映えする瞬間、経験・観光地

- ・SNSはますます重要になってきており、人々はSNSを活用し、自己イメージを描き、思い出の記録として旅行をするようになっている。

## <健康な生活の追求>

### ウォーキング、健康・スポーツツーリズム

## ○ウォーキング

- ・自然体験と田舎のライフスタイルの経験や健康指向とフィットネスがトレンドとなっている。

## ○健康

- ・余暇の価値が見直され、人々は仕事とウェルネスを調整して旅に出る。
- ・人々は、ストレスフルなライフスタイルとアンチエイジングのため、スパ、ヘルスリゾート、山岳地を訪ねる。

## ○スポーツツーリズム

- ・観客に焦点を当てたアクティビティや体験に加え、地元の体験を追加する試みが重視される傾向にある。
- ・スポーツツーリズムは、観光開発、観光地のブランディング、インフラの開発を促進する。

## <「アクセスエコノミー」の拡大>

## ○シェアリングエコノミー

- ・旅行者は一時的に利用する商品・体験をシェアしたいもの
- ・デジタル革命は仕事のやり方を変え、仲間同士をつなぐ土台を形成する

## <ひとり旅と複数世帯での旅>

### 高齢化・独居世帯の増加の結果

## ○高齢化

- ・高齢化によってヘルスツーリズムはますます重要となってきており、高齢者向け療養プログラムを有する観光地も増加している。

## ○独居世帯

- ・様々な年齢層で独居者が増えているが、必ずしも一人で旅行する訳ではない。
- ・家族よりもコミュニティの一部であることを実感できるような体験が求められている。

## ○世代間旅行

- ・一つの家族の複数世代による旅行体験を向上させることが観光振興のためには重要となる。
- ・そのためには、複数の市場セグメントを満たす製品・宿泊体験の提供が必要。



## <持続可能性についての意識の向上> プラスチックゴミの減量や気候変動

### ○ゼロプラスチック

・環境保護がますます重要視されるようになってきており、商品の再利用・リサイクルが活発になってきている。

### ○気候変動

・環境保全・保護」を問題意識として持つ人々が増加し、また、ボランティア旅行が増加している。  
・コミュニティや持続可能性が重要視されるようになっている結果、持続可能性の追求において、よりコミュニティ指向が重視されるようになっている。

## <APTEC/UNWTO駐日事務所の活動>

### <令和元年5月16日>「国際的視野で考える 日本・関西インバウンドの次なる展開 ～観光地経営とDMOs - the UNWTO.QUEST Program～」を和歌山大学と開催しました



### <令和元年5月18日、19日> 関空旅博2019に出展・ブータンデスティネーションセミナー を開催しました



### <令和元年5月29日> 京都外国語大学で講演しました



＜令和元年6月3日～7日＞第31回東アジア太平洋地域・南アジア地域合同委員会に出席しました（日本が執行理事国に再選）



＜令和元年6月24日～29日＞UNWTOのアジア太平洋部が主催するエグゼクティブトレーニングに参加しました



＜令和元年7月9日＞JICA課題別研修において「サウティナブル・ツーリズム」や「持続可能な観光地マネジメント」について講演しました



＜令和元年7月27日＞奈良県立畝傍高等学校における「地域との協働による高校教育改革推進事業(グローバル型)に係る「未来創造会議」に指導助言者として参加しました



＜令和元年8月1日＞奈良県教育委員会等との連携協定の締結をしました



## <今後の予定>

### 「世界観光倫理憲章署名式」を開催します

各国政府、観光業界、地域社会、旅行者等の観光産業の発展の主要関係者が、責任ある持続可能な観光を実現するために参照すべき規範としての世界観光倫理憲章の署名式をTEJ2019in大阪(ツーリズム・エキスポ・ジャパン2019)の際に行います。

日程:令和元年10月24日(木)

### <令和元年12月12日、13日>第4回国連世界観光機関/ユネスコ 観光と文化をテーマとした国際会議を開催します

日程:令和元年12月12日(木)～13日(金)

場所:国立京都国際会館(京都市営地下鉄「国際会館駅」下車すぐ)

詳細については、追って御案内します。

### Future Tourism Leaders Workshop～Sustainable Development Action in Rural Tourism～ をJICA、和歌山大学と開催します。

日程:令和2年2月26日(水)～28日(金)

場所:和歌山大学

詳細については、追って御案内します。